南アルプス高部

沢から縦走

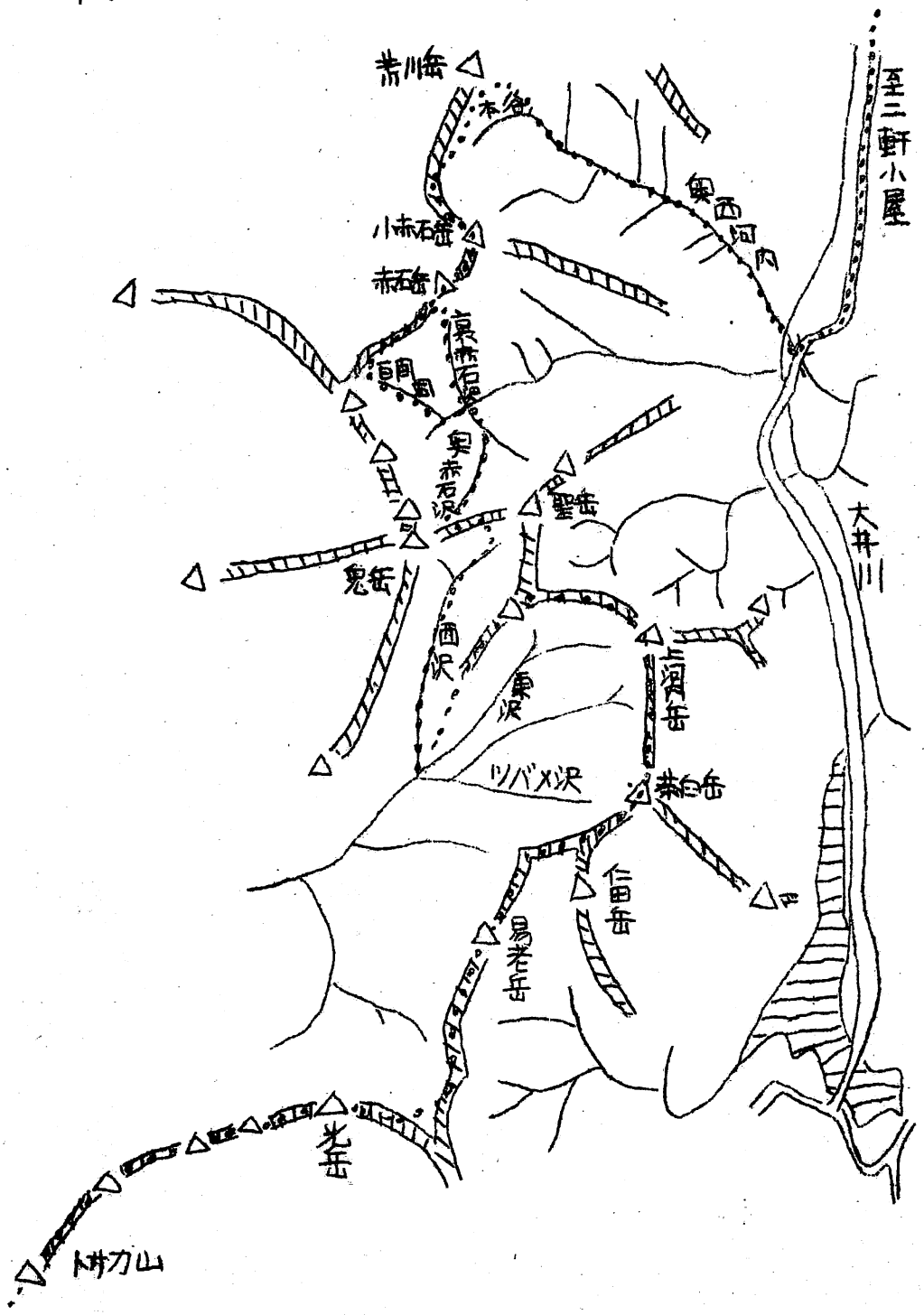
SMAC

☆メンバーと係り

リーダー　吉田 秀樹（L4－D）

会計・渉外・気象・医療　大塚 博（A1－I）

装備・記録　池田 茂樹（A1－I）



行動記録

7/20 ①

松本(17:39) ═ 甲府(20:58) ═ 身延(22:57)

本日は駅泊り。

7/21 ① → ⓪

身延(6:50) ═ 田代入口(8:00) ═ 転付峠(12:45) ═

二軒小屋(13:20) ═ 千石沢出合C(14:10)

今日は転付峠越えである。あの悪夢のような徳本峠を思い出しながら登る。荷が今程でないためか比較的あっけなく峠に出た。あとは二軒小屋までかけ下り、林道を幕営地を捜しながら歩き、小一時間で千石沢出合の砂防ダム下にテントを張る。

7/22 ①

千石沢出合(6:15) ═ 奥西河内沢出合(8:25) ═ C(14:15)

林道歩きは疲れた。いよいよ沢登りであるが、まだ慣れないので、渡渉などで気を使った。

7/23 ①

C(6:55) ═ 二俣C(11:05)

奥西河内沢はほとんどゴーロ状をなし、何となく二俣まで来る。予定通りここにテントを張る。午後は昼寝。

7/24 ⓪ → ◎

二俣C(6:15) ═ 大滝上(8:12) ═ 縦走路(10.00) ═

赤石岳(12:30) ═ 百間洞大滝下BC(15:35)

大滝の高巻きには予想外の時間を要した。踏み跡をのがしてしまい、大きく高巻き過ぎたような結果では、ルートを誤り、かなり荒川岳の方へ行ってしまった。縦走路を進むにつれ、ガスから雨になりさんざんである。

百間洞は傾斜もゆるく大滝以外は問題なく、どんどん下れた。大滝の高巻きでは、スラブのトラバースがあり、ザイルを出して吉田さんにビレーしてもらい渡る。あとは草付の急斜面を降りてそこにテントを張りB.C.とした。

7/25 ①

B.C.(6:30) — 奥赤石沢出合(8:30) — 稜線直下(11:45) — 赤石岳山頂直下、縦走路(12:30) — 百間平(13:10) — 百間洞(13:45) — B.C (14:30)

まず百間洞の下降であるが、けっこう小滝があり時間がかかる。途中、大きな淵に遮断する。いろいろやってみるが、結局泳ぐようにして渡る。いよいよ奥赤石沢であるが滝が連続しており、おもしろそうであるが、滝は殆どんどん高巻き、難なく稜線に出た。つ上げた所から縦走路まではガラガラの尾根を20分くらいであった。あとは昨日と同じコースをB.Cまで。

7/26 ①

B.C.(6:50) — 奥赤石沢出合(7:35) — 二俣(8:30) — 稜線(11:05) — 西沢下降点(11:15) — がし下(13:00) — 西沢 1600m地点 C (14:55)

一日おいて荷をかつぐと非常に重く感じる。しかし、一度通った所だけに奥赤石沢へは難なく着いた。小雪渓を越し、しばらく行くと沢は二俣となり、ここでルートに悩み結局左俣へ入る。そのまま詰め、這い松のヤブにつっ込むが比較的大きいので非常にきついヤブコギであった。縦走路に出てしばらく行くと奥赤石沢からの踏み跡が出たのでくやしがる。奥赤石沢はそれほどおもしろい沢ではないが、横沢は滝の連続したすばらしいものがたくさんあるようだ。聖のピークを踏めないのは残念だが今

の行程はまだ長いので、しかたない。すぐに西沢へ下降する。急斜面のガレはすぐに崩れ、思わず緊張する。後をふり返れば、聖西面の岩壁が威圧的に迫る。しかし、まわりを見回す余裕はなくひたすら足元に注意して下る。大分下った所で涸れ滝に出合う。岩が非常にもろく、下降は困難。ザイルを出して吉田サンにビレーしてもらい慎重に下る。滝の下もまたガレの急斜面である。傾斜がゆるくなりしばらく行くとゴルジュとなる。巻き道にはフィックスがあり、楽に巻けた。その後はゴーロで、しばらく行き、平らな所でテントを張る。約1600m地点だろう。

7/27 ① C(7:05) — 西沢渡(11:50)

ゴーロをしばらく行くとゴルジュとなり高巻く。ここで巻き道は全くわからず、岩壁につき当り結局木の生えた急斜面をアップザイレンの繰り返しで下った。ここが西沢で一番きつかった。後はまたゴーロが続き、ついに西沢渡の砂防ダムに至った。しかしこのダムがまたやっかいで降りようにも高過ぎるし手がかりもなにもない。結局左岸へトラバースし、アップザイレンで降りた。ここまで来て、燕沢は断念することとし、テントを張る。午後は昼寝をして過ごし、山にいる幸を感じた。

7/28 ◎ → ① → ◎ → ◎

西沢渡(6:35) — 聖平(9:55) — 上河内岳肩(11:50) — 茶臼岳(13:00) — 光岳下C(16:30)

西沢渡より尾根道を快調にとばし何となく聖平に着く。しかしこのオバーペースが後にひびいてこようとはだれも考えなかった。聖平はキスゲの花が盛咲きみだれ、この世の楽園といった趣だった。聖平より上河内岳、茶臼岳と登って行くが、茶臼あたりから疲労が出てくる。光岳

の登りにかかるともう限界に達し（池田）ふらつく足どりで光岳下の水場に着くが、もうここでテントを張ることにする。夜はひどい雷雨となり、ひどい一日だった。

7/29 ◎ → ●

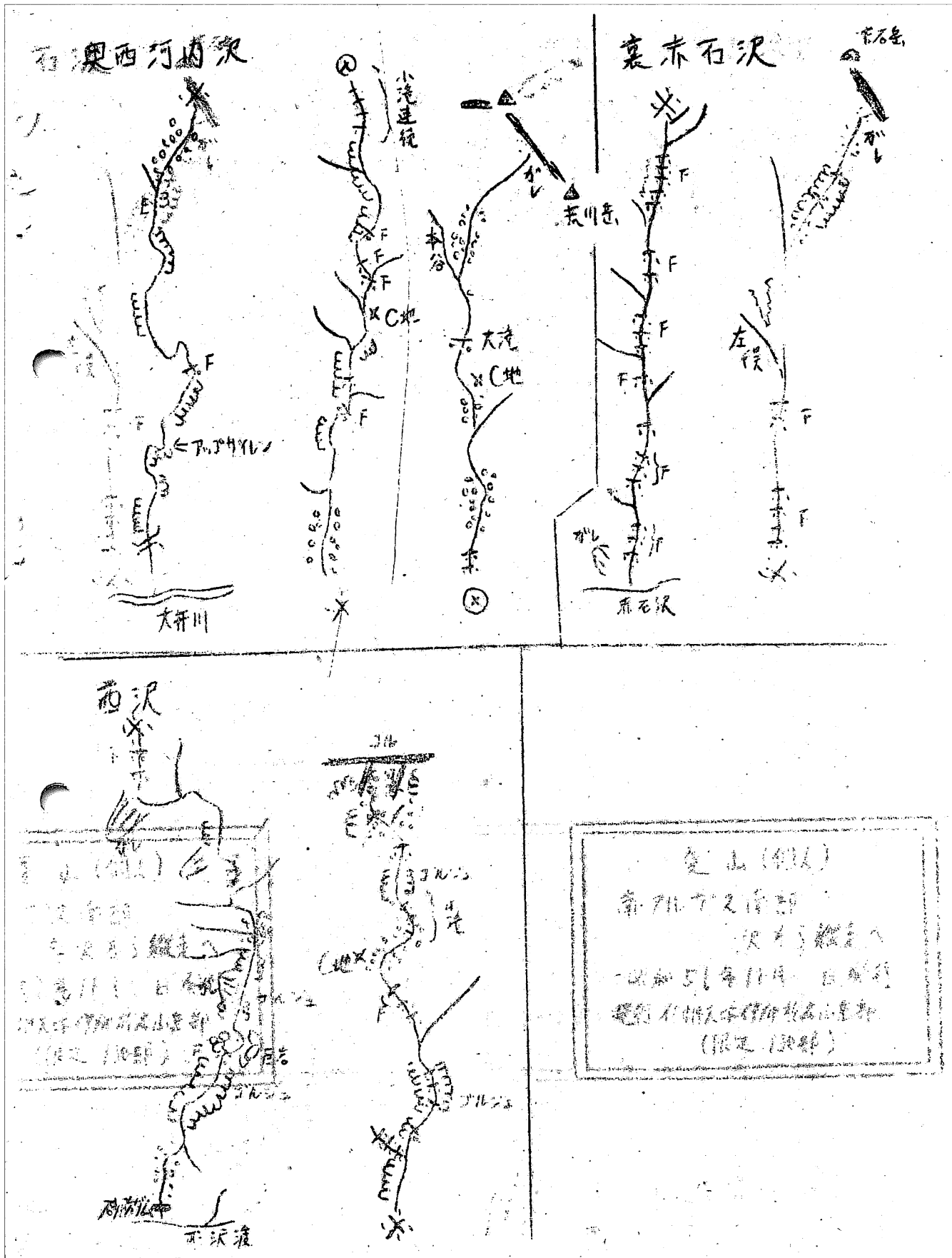
C（7:20）— 光岳（8:00）— 池口岳（12:03）— C（15:45）

昨日の今日で足どりは重い。光岳のピークでも何の感動もわかず、ひたすら歩を進める。光岳以南を踏み跡はあるものの、倒木がひどく、非常に歩きづらい。途中で高校生らしきパーティーに出合いおどろいた。やっとのことで鋸岳山手前のササ原にテントを張る。今年は水場が かなり下（吉田氏談）なので、苦労した。今日も夜になると雷雨となった。ツェルトの中を川が流れているようだった。

7/30 ①

C（6:30）— 和田（バス待）（16:00）

やっと下山の日。鋸岳山の登りにかかるが、長き道らしき踏み跡があるのでそれをたどり、西面へ出る。そして下り始めるが、樹林の中のため、尾根の判断ができぬ。何度か登ったり降りたりした末、それらしき尾根に入るがまたまた発生尾根に悩まされ、時間と労力を使う。やっとのことで地図上の三角点らしき標識を見付けてやっとホットできた。それからは自信を持って行けたが、遅々として里は近付かない。伐採跡の切り株の歩きづらい道を赤い標識をたよりに下ると、ようやく完全な道に出、里に来た。しかし、バス停はまだ先である。疲れ切った体にむち打ちバス停に着いたのはもう四時であった。バスを待つ間に吸ったタバコ程うまいものはなかった。


石澤西河内沢
小流連続
C地
本谷
大流
C地
荒川岳
アップサイレン
大井川
裏赤石沢
赤石岳
左俣
赤石沢
西沢
コルンシュ
コルンシュ
西沢渡

夏山（個人）
南アルプス南部
災害の継続へ
昭和51年11月　日発行
発行 信州大学付属松本山岳部
（限定 130部）